

豊門市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
-------------------	--------	--------

● 第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■事務事業の概要

1－1 事務事業の名称	道路パトロール事業										
1－2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	維持管理係	評価票作成者	維持担当係長 石川 悟			
1－3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興				③基本施策	道路	コード	3－1－1		
		「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」				④単位施策(中)	道路の維持管理	コード	3－1－1－3		
	②項	道路・交通				⑤単位施策(小)	危険箇所の早期発見	コード	3－1－1－3－1		
1－4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市道 1, 2 9 3路線 延長3 4 8. 0 9 2 km			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		良好な市道の状況を保つ。				
1－5 事務事業の内容	道路パトロールの実施により不良箇所の早期発見に努める。										

2 ■事務事業実施の状況

2－1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成19年度	生活道路のパトロールを重点的に実施した。直営で実施できることは、その場で行った。			財政状況が厳しい中で、予算を有効に活用する。			個人本意の要望が強くなった。			
	平成20年度	路面の経年劣化による補修を重点的に実施した。直営で実施できることは、その場で行った。			〃			個人意識の多様化に伴う対応に迫られた。			
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
	平成27年度										
	2－2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(件)	後期目標値(件)	指標の説明			
不具合・危険箇所発見件数（件）				200	150	道路パトロールによる不具合・危険箇所発見件数の合計。					
2－3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	活動実績a（時間）	416	416								
	直接事業費b（千円）	418	567								
	人件費c（千円）	1,331	1,331								
	合計コストd（b＋c）（千円）	1,749	1,898								
単位コストd／a（千円）	道路パトロール1時間当たり 1.0	道路パトロール1時間当たり 1.4	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	
アウトプット実績（活動数値）の補足説明		→ 維持予算の内、直営で実施した補修作業の原材料費を計上した。 活動実績=週4時間×52週×2人 人件費はパトロール常務時間を計上した。 人件費=416時間×3.2(千円)/時間									

2－4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績（件）	199	187								
	後期目標値 に対する達 成度（％）	59%	69%								

H16現状値：270

3 ■事務事業の自己評価結果

3－1 評価結果 (アウトカム自己分 析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	A								

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3－2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	交通量の増大に伴い、路面の痛みも早く、危険箇所の早期発見が必要である。	道路パトロールの方法やルートを再検討する。	危険箇所の早期発見に努め、利用者の満足度を高めることができた。
	平成19年度	〃	重点地区のパトロールを強化する。	〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■事務事業の総合評価結果

4－1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		